

教科化で求められる多様な指導方法 1

役割演技

1年生「かぼちゃのつる」で、自分のつるを道路までどんどん伸ばすかぼちゃに、ミツバチ、チョウ、スイカ、犬が関わる場面で行われた役割演技の実際の様子です。

T 1 かぼちゃは、ミツバチやチョウ、スイカ、犬に注意されますよね。みんなに注意された時、かぼちゃはどんな気持ちだったのでしょうか。また、注意したみんなはどんな気持ちだったのでしょうか。

ミツバチは先生がやりますので、チョウやスイカ、犬、かぼちゃになりきって、その時の気持ちを発表してみましょう。

T 2 (ミツバチ) あなたの畑はまだ空いているじゃないの。そんなにつるを伸ばさないでよ。

C 3 (かぼちゃ) こっちに伸びたいんだから放っておいてよ。

C 4 (チョウ) みんなの迷惑になっているからやめてよ。

C 5 (かぼちゃ) 僕の勝手だろう。

C 6 (スイカ) 私の畑まで入って来ないでよ。自分の畑の中でつるを伸ばしてよ。かぼちゃ君は自分勝手だから困るよ。

C 7 (かぼちゃ) うるさいな。いいじゃないか。

C 8 (犬) みんなの通る道なのに迷惑だよ。みんな困っているよ。僕も困るよ。

C 9 (かぼちゃ) みんなが困っても、ぼくは楽しいからいいだろう。

T 10 今、発表したみんなに感想を聞きます。**注意したみんなは、やってみてどう思いましたか。**

C 11 かぼちゃ君がいくら止めてって言っても止めてくれないから困った。

C 12 かぼちゃ君は自分勝手だし、みんなの意

見も聞かないから困った。

T 13 かぼちゃ役をやってみた●●君はどうでしたか。

C 14 みんなが困っているから、途中で伸ばすのはいけないかなと思った。でも、楽しいから止められないっていう気持ちだったと思う。

T 15 なるほど。かぼちゃは「ちょっといけないかな」って思っていたけど、楽しいから止められなかったのですね。では、皆さんは見ていてどう思いましたか。

C 16 自分勝手なかぼちゃ君はいけないなと思った。

C 17 みんなが困っているのに止めないと迷惑になっちゃうのだと思った。

T 18 それでもかぼちゃはつるを自分勝手に伸ばし続けて、最後は車にひかれてつるが切れてしまいました。つるを切られて涙を流したかぼちゃは、どのようなことを考えているのでしょうか。

C 19 つるを道に伸ばさなければ良かった。

C 20 みんなの言うことをしっかり聞けば良かった。

・・・・・・(続く)・・・・・・

(『道徳と特別活動 平成26年10月号』江東区立第二辰巳小 井出上鮎先生の実践より)

授業記録のT 1からC 9までが役割演技の部分です。役割演技がスムーズに行えるように、ねらいから外れないように、必要に応じて演技中に揺さぶることができるようにミツバチは先生が行い、それ以外の役に子供を割り当てました。台本があるわけではなく、その時その場の他の児童との関連で、次々と即興的に意見を述べ合っていることが分かると思います。これが役割演技です。

道徳の授業における役割演技は、精神科医のモレノ（アメリカ）が発案したソシオドラマ、サイコドラマを道徳に合うように改良工夫して実施されているものです。授業記録からも分かるように、子供に自発的・即興的に演技させ、刺激～反応が繰り返されることで本音を引き出しやすくする効果があると言われています。相手とのやり取りを振り返ることで、今までの自分はどうかだったのかなあと、知らず知らずのうち自分自身を省みることもできます。

大津のいじめ自殺に端を発して、いじめ対策として道徳教科化の検討が始まりました。いじめ指導で役割演技を利用する場合がありますが、その際、より一層行き届いた配慮が必要です。演技の中で互いの人権を損なうことを言ったり、特定の子を非難することがあってはいけません。

役割演技のルールとして、「言葉でかなり激しいことを言ってもいいけど、行動は激しくあってはいけない」というものがあります。言葉で「何を一つ」と言っても、実際に殴りかかったり胸倉をつかんだりしてはいけません。そんなことをしたら、「役割演技ごっこ」と言って悪用され、新たないじめを生み出すことにもなります。

安全確保以外にも、役割演技を行う際には、さまざまな基本的なルールがあります。以下、基本的なルールをまとめてみます。

役割演技のルール

- ① 自発性を尊重する。
- ② 即興性を尊重する。
- ③ 役割を交代する。・・・全く逆の役割を演じさせ、相手の気持ち、立場に立って考えさせる。
- ④ 役割交代の途中で演技を止めて考えさせる。「ちょっとストップ」とかけて、観衆に対して、「今、Aさんはこう言ったけれども、その考えはどうなのか」「〇〇さんに対して援助してやれる人はいるか」など、観衆の中から新しい役割が登場させて指導に利用す

ることもできる。

- ⑤ 演技中の言葉は激しくても行動は激しくしてはならない。
- ⑥ 演技の上手・下手の批判、評価をしない。
- ⑦ 演技そのものに注目を付けてはいけない。
- ⑧ 高圧的に指示、命令をしてはいけない。
- ⑨ どんな演技をしても肯定的に受け入れる。
- ⑩ 人権に留意する。

いきなり役割演技をやろうとしてもうまくいかない場合もあります。ある文科省道徳研究の指定を受けた中学校で、最初の時間に、最初の一人の役に手が挙がるまでに20分、次の一人に5分の沈黙が続いたときと聞きました。学級経営で、日頃から表現しやすい学級の物的・人間的な環境を作っておいてあげることが、役割演技による指導を成功させる前提となります。最後に、一般的な役割演技の指導過程を示します。授業の中でやりやすいように応用・発展させてください。

役割演技の基本的指導過程

- ① **ウォーミングアップ**
劇的表現を楽しむ環境づくり
- ② **演ずるための条件設定**
演技者の役割設定、役割相互の関係、場面の状況の設定など
- ③ **即興的演技（1）**
始めは先生と子供、次は子供同士など段階を経て子供同士に移行する。
- ④ **中断の話し合い**
ねらいに迫るため、中断して問題や疑問点を話し合う
- ⑤ **演技に対する刺激または強化**
状況に変化を与えるなどして、演技を刺激したり強化したりする。（例えば、かぼちゃ役にもっと大声で言わせるなど）
- ⑥ **即興嫌疑（2）**
強化された刺激に再び応答させる。
- ⑦ **役割交代**
身をもって相手の立場を理解。自他の認識を深めより良い生き方を体得させる。